

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和4年7月発行
西部教育事務所

今回は黒潮町立大方中学校で行われた、6月21日(火)授業研究会の様子を紹介します。



【単元名】『クマゼミ増加の原因を探る』を読み、筆者の説明の仕方を捉えよう(第2学年)【授業者】福岡 征則教諭(黒潮町立大方中学校)

5月16日に予定されていた教材研究会は中止となりましたが、大方中学校国語科の教科会が検討を重ね、提案授業をしていただきました。
資質・能力を育成するためには国語科の要となる「言語活動」を設定し、「自分事になる問い」をもたせることが必要となってきます。しかし、生徒自身が学びを主体的に推し進めていくための原動力となるための問いを、どのようにもたせていけば良いのか、先生方にとっても難しさを感じているのではないのでしょうか?授業研究会では、生徒と教材をどう向き合わせ、どのような「問い」をもたせるのかという単元の入り口になる部分の授業を見せていただき、参加者全員で協議・演習を行いました。

大方中学校の課題	【本単元で育成したい資質・能力】	本時のポイント
<ul style="list-style-type: none"> 複数の情報を整理すること。 図表と関連付けて筆者の主張を捉えたり、論理の展開を整理したりすること。 	<p>〈思考力・判断力・表現力等〉 第2学年 C「読むこと」ア</p> <p>文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。【構造と内容の把握】</p>	<p>教科書教材と教科書書き換え版(図表や見出し、仮説Iを意図的に削除した文章)の二つの文章を読み比べることで、「筆者がどのような工夫をしながら主張を述べているのか」という、単元を通して解決したい課題を生徒自身にもたせ、全体と部分の関係に着目しながら論理の展開について考えていくことを目指しました。</p>

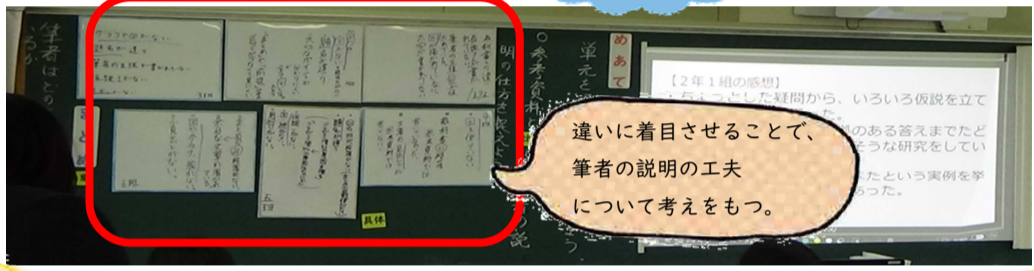
「読むこと」の学習過程

構造と内容の把握
精査・解釈
考えの形成
共有

それぞれの学習過程で身に付けるべき力を明確にしましょう

協議の視点

- 本時で育成したい資質・能力は身に付いたか。
- 単元を通して解決する課題・問いは子供のものになっていたか。



Point!

言語活動と「問い」

育成したい資質・能力を身に付けさせるためには、単元づくりの三つの要素(図1)を関連付けて単元を構想することが必要です。特に国語科の要ともいえる「言語活動」が、生徒の関心や実態に応じて目的や相手を具体的に設定することで、生徒自身が単元ゴールまでの見通しをもち、課題解決に向けて何をどうすれば良いのかという「問い・疑問」をもつことに繋がります。(図2)

大方中学校が提案した単元構想では、二つの文章を比較させることで「筆者の説明の工夫の意図や効果」についての問いをもたせるように工夫を行っていました。

このように生徒が主体的に学びを推し進めていくためにも、「問い」を教師が与えるのではなく、どうすれば生徒自身に「問い」をもたせられるのか、生徒の思考の流れを想定して単元を構想していくことが必要です。

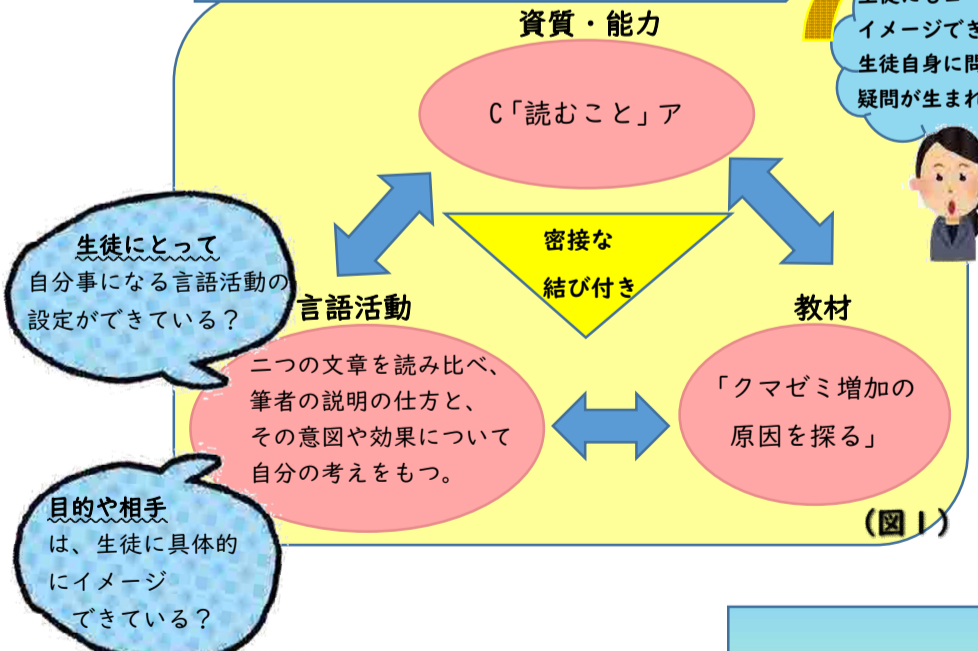
Point!

学習過程で育成する資質・能力の明確化

資質・能力を育成するための二つめのポイントは、それぞれの領域の学習過程で、どのような力を付けていかなければならないのかを明確にすることです。

例えば本時では、C「読むこと」ア【構造と内容の把握】という学習過程で、図表や仮説がどのような役割を果たしているのか、全体の中でその位置に置かれているのはなぜかなどに着目して文章を見直すことで、文章全体と部分との関係について捉え直し、どのような内容をどのように述べているかを把握することに繋がります。

単元づくりの三要素 本単元では(大方中Ver)



問い・疑問 (図2)

- 二つの文章のそれぞれの特徴は何か?
- 筆者は結論までどんな風に自分の考えを書いているのだろうか?
- 図表があるのと、ないのとでは、どんな違いがあるのかな?
- 教科書にはあるけど、資料にない部分があるな。なぜだろう?

筆者の説明の工夫の意図や効果とは?

〈グループ協議での意見〉

- ・内容の把握が十分でないため、具体例と主張がどのように結び付いているのか、全体と部分との関係について生徒が捉えるところまでいかなかったのではないかな。
- ・比較する教材がきっかけとなり、記述の仕方の違いに気付くことはできていた。しかしその違いが形式(図表や見出しの有無など)のみになっていて、主張と例示の関係性までを考えることができなかったのではないかな。

受講者の声

○生徒が考えている姿や悩んでいる姿を客観的に見ることで、自分の授業が生徒にとって考える必然性がある授業になっているのかを考えるいい機会になった。生徒が本気で考えたいような問いを設定したいと改めて思った。明日から継続して実践していきたい。

○目的や相手意識をもたせた言語活動を設定することで、生徒が主体的に学習できるような授業を目指したいと思いました。

○教科を越えて「見方・考え方」を育むために、どの教科でも付けたい力から単元を作ることが大事であることを学んだ。(他教科の参加者より)

